

せたいと話された。以下がその内容である。

《第十一話》

大判小判が夜泣き金谷長者

むかし、むかし、金谷の里の長者さまは、一夜のうちに滅びてしまったとき。

金谷の里は今の小熊町下野上字金谷平で、原発の町の白いスマートな役場の西手に広がる。こ
んもり茂った森が長者屋敷の跡。田んぼになった牛土淵沼での変事が、長者さまの身の上をどう
説明するのかわからない。とにかく、屋敷跡では大判小判が夜泣きするそう。

× × ×

一の蔵には米俵。二の蔵にはみそ、しょうゆ、三の蔵には祝儀用のおせん、おわん…と蔵が七
つもあったと。

大勢の作男がいた。久麻川の浜から砂鉄を取り、炭を焼き、鉄をふく（製鉄）、農具を作る鍛
冶屋があり、売り役もいた。山にはウルシを植え、ウルシがめがいくつもあったと。だから暮し